

こども家庭庁「こどもデータ連携実証事業」に係る 令和5年度の実施内容 及び 令和6年度の採択について

本市が令和5年度にこども家庭庁より採択を受けておりました標記事業の実施結果及び令和6年度に引き続き採択を受けたことについて、ご報告いたします。

1 事業趣旨

近年、虐待、不登校、ヤングケアラー、貧困等、子どもや家庭を取り巻く環境がますます厳しさを増す一方、困難を抱える子どもや家庭ほどSOSを発することが難しいことから、プッシュ型支援の重要性が指摘されている。

それらを背景として、国においては令和4年度から、自治体内外において分散管理されている子どもや家庭に関する福祉、保育、医療、教育等のデータを分野を超えて連携・分析することにより、潜在的に支援が必要な子どもや家庭を早期に発見し、プッシュ型支援につなげる取組の推進を図っている。その実施に際し、データの項目や制度面を含めた課題等を整理するため、モデル的に事業に取り組む自治体を募集していた。

2 令和5年度の実施結果

(1) 事業の流れ

市、NECソリューションイノベーター(株)、(一社)九州テレコム振興センター等が連携し、データ分析システムを開発し、以下の通り事業を実施。

①システムによる分析【一次絞り込み】

開発した分析システムにより、福祉、保育、医療、教育等の各種データを連携・分析し、困難にさらされている可能性のある子どもや家庭の絞り込みを実施。

②人の目による判定【二次絞り込み】

一次絞り込みの結果を受け、「モデル校の学級担任へのヒアリング」、「1歳半・3歳半健診時の問診による母親へのヒアリング」を経て、支援が必要な子どもや家庭を判定。

③アプローチ

二次絞り込みの結果を受け、一部の家庭に訪問し、市の相談窓口の紹介等の支援を実施。

(2) 取り組んだ困難の種類

虐待、不登校、ヤングケアラー、貧困、産後うつ、発達障がい

3 令和6年度の採択内容

(1) 事業概要

令和5年度に開発した分析システムを引き続き活用し、5年度実証時点以降のデータを新たに収集・分析を行うことで分析精度の向上を図る。

事業の流れ及び取り組む困難類型は5年度と同様とする。

(2) 事業規模

22,996,000円 ※事業費は直接システム会社に支払われるため、市の予算計上は不要

(3) その他

採択団体(継続:8団体、新規:募集中)及びそれぞれの事業計画については、こども家庭庁のホームページに掲載される予定。

令和5年度 実施結果

【取組み概要】

本市は、令和5年度より本実証事業に取り組んでおり、「虐待」「不登校」「ヤングケアラー」「貧困」「産後うつ」「発達障がい」の6つの困難類型を取り扱った。

【実証事業の結果】

①システムによる分析（一次絞り込み）

庁内各課及び外部団体が保有するデータをシステム上で連携・分析し、困難リスクが高いと思われるこどもについて絞り込みを行った。

②人の目による判定（二次絞り込み）

＜虐待・不登校・貧困・ヤングケアラー＞

特定の学校を通した絞り込みを実施した。システムで困難リスクが高いと判定されたこどもに関して、学級担任にヒアリング等を実施し、支援が必要とされるこどもを判断した。

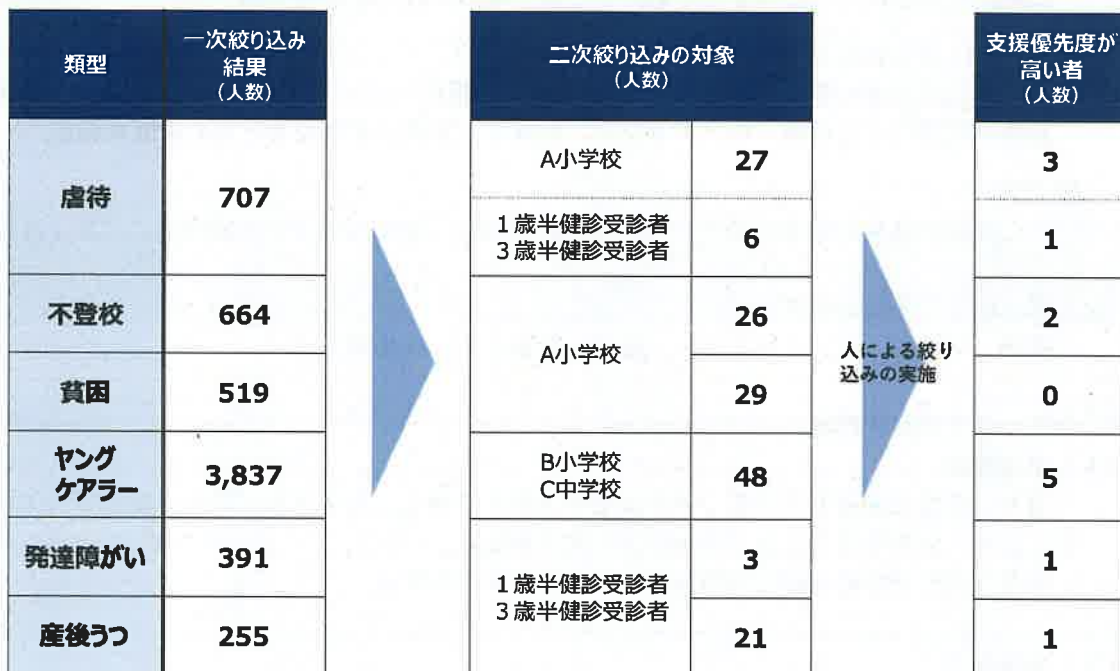
＜虐待・発達障がい・産後うつ＞

システムで困難リスクが高いと判定されたこども・母親のうち、一定期間に市が実施した乳幼児健診の機会を活用した。健診での問診時に、市の保健師が母親にヒアリングを行い、支援が必要とされるこども・母親を判断した。

③アプローチ

支援優先度が高いと判断した家庭のうち一部について保健師がアプローチし、相談を聞いたり、市の相談窓口を紹介する等の支援を実施した。

＜絞り込みのプロセス＞



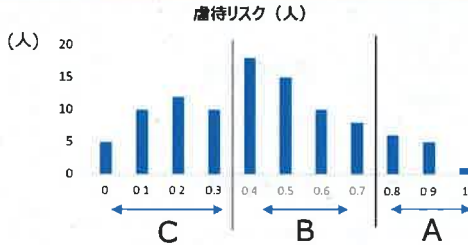
※ヤングケアラーのシステム分析について

これまで本市における対応実例の少ないヤングケアラーについては、システム分析の精度向上が今後の課題となる。

令和6年度 実証事業の流れ

①システムによる分析
(一次絞り込み)

②人による絞り込み
(二次絞り込み)



■リスク分析

- 各種データを連携させ、世帯ごとに子どもがさらされている可能性のある困難をAI分析する。

■リスクランクの可視化

- 個々の子ども・母親について、困難に陥っている可能性が高い順に「A」「B」「C」の判定を行い、システムにてリスクランクを可視化する。
- リスクランク及び基本連携データ項目にて複合的に絞り込みを行う。(二次絞り込みでの活用も検討)

■実施体制 (参画事業者)

九州テレコム振興センター、NECソリューションイノベータ
日本電気、日本アルゴリズム

■関係機関による支援方針等の検討

- システム判定により得られた予測結果から、実際にアプローチすることも・母親の絞り込みを行う。
- アプローチする者、支援方策等を決定する。
- 必要に応じて、小中学校、外部団体等への調査・ヒアリングを行う。
- 対象者が乳幼児の場合は、健診の機会を活用し保健師による母親へのヒアリングを行う。

■実施体制

おやこ保健福祉課
こども家庭サポートセンター

③リスクシミュレーション

④アプローチ・支援への接続

⑤結果の評価



■リスクシミュレーション

- 支援によって改善が見込まれる項目を変更することで、リスクランクがどのように変化するかシミュレーションする。

【例】生活保護の受給

無→有に変化した場合リスクランクがA→Bに変化する。

- シミュレーション結果も参考にしつつ、アプローチ方法を検討する。

■実施体制

おやこ保健福祉課
こども家庭サポートセンター

■アプローチ・支援

- 子どもや家庭にアプローチを行い、支援方策への接続を行う。
- 必要に応じて、外部団体とともにアプローチを実施する。

■実施体制

おやこ保健福祉課
こども家庭サポートセンター

■評価

- システム分析の正確性について評価する。
- 実施した支援策について、その結果について評価する。
- 実施結果について、データ入力モデルの再学習に活用。

■実施体制

おやこ保健福祉課
情報政策課



令和6年度 利用するデータ項目（予定）

データ項目については、令和5年度に利用したデータ項目を基本とする。

データ	データ概要	管理方法	データ保有・管理主体	
住基情報	市民の「氏名」「住所」「年齢」「性別」等の基礎情報	システム	市民課	延岡市 (市長部局)
生活保護受給状況	生活保護受給者に係る情報	システム	生活福祉課	
自立支援相談情報	生活保護受給や自立支援に係る相談を行った者の情報	Excel	生活福祉課	
保育施設入所状況	保育施設入所者に係る「氏名」等の基礎情報	システム	こども保育課	
保育料納付状況	保育料の納付額や滞納状況に係る情報	システム	こども保育課	
妊娠届出情報	妊娠届出を行った者の情報	システム	おやこ保健福祉課	
妊婦健診情報	妊婦に係る健診結果の情報	システム		
産婦健診情報	産婦に係る健診結果の情報（EPDS含む）	システム		
乳児健診情報	乳児期に行う健診結果の情報	システム		
乳幼児健診情報（1歳6ヶ月）	1歳6ヶ月期に行う健診結果の情報	システム		
乳幼児健診情報（3歳6ヶ月）	3歳6ヶ月期に行う健診結果の情報	システム		
7ヶ月児健康相談情報	7ヶ月期に行う健康相談の情報	システム		
2歳6ヶ月歯科健診情報	2歳6ヶ月期に行う歯科健診結果の情報	システム		
児童手当受給状況	児童手当の受給状況に係る情報	システム		
児童扶養手当受給状況	児童扶養手当の受給状況に係る情報	システム		
子ども医療費助成受給状況	子ども医療費の受給状況に係る情報	システム		
ひとり親家庭医療費助成受給状況	ひとり親家庭医療費助成の受給状況に係る情報	システム		
フードバンク利用状況	食料品の提供支援を受けている家庭の情報	Excel		
子育て世帯生活支援特別給付金受給情報	子育て世帯生活支援特別給付金の受給状況に係る情報	システム		
支援対象児童等見守り強化事業の対象者情報	外部団体によるこどもの家庭訪問や食料品の支給状況に係る情報 ※外部団体からおやこ保健福祉課に提出	Excel・紙		
要保護児童対策地域協議会への登録情報	要保護児童・要支援児童に係る情報	Excel	こども家庭サポートセンター	
障がい児情報	こどもの障がい者手帳（身体、療育、精神）の交付状況等に係る情報	システム	障がい福祉課	
障がい者情報	こどもと同一世帯の者の障がい者手帳（身体、療育、精神）の交付状況等に係る情報	システム		
就学援助受給状況	就学援助（物品購入等）に係る受給情報	システム	学校教育課	延岡市 (教育委員会)
学校出席状況、遅刻・早退状況情報	各学校における出席等の情報	システム	小中学校	
学校健診・歯科健診情報	こどもの健診受診及び結果に係る情報			
保健室入室状況情報	こどもの保健室利用に係る情報			
上下水道料納付状況	上下水道料金の納付に係る情報	システム	業務課	延岡市 (上下水道局)